

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立柏原高等学校

学校長名 大垣 喜代和

類型 グローカル型

3 研究開発名

TAMBA Mirai Project 丹波からTAMBAへ

～グローバルな視点で丹波の地域課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～

4 研究開発概要

地域が抱える課題と世界が抱える課題との共通点を見だし、SDGs（持続可能な開発目標）に関連するテーマについて、地域の自治体や関係機関に加え、海外の教育機関も含めたコンソーシアムを構築し、グローバルな視点で共同研究を行うことで、地域と世界をつなぐ柔軟な発想を持ち、立場や文化、背景の異なる人々とも協働しながら実践的に学び、地域資源を生かした課題解決について提案し、地域や世界の未来を創造できるグローバルな人材の育成をめざす。

育成すべき具体的な資質・能力として、①地域の魅力と課題を理解し、活性化や課題解決に積極的に関わろうとする姿勢、②世界と地域を結び付けた広い視野から地域課題を解決しようとする柔軟な発想力、③価値観や文化の異なる人たちと協働しながら課題解決に取り組む実践力等を培うことで、将来グローバルな視点で地域を創造することのできるリーダーを育成できると考える。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--|---|----------------------------------|
| ・学校設定教科・科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input type="checkbox"/> 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館 館長	学識経験者
高畑 由起夫	関西学院大学 フェロー	学校教育に専門的知識を有する者
杉岡 秀紀	福知山公立大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
柳川 拓三	丹波市観光協会 会長	関係機関の責任者
Rooks Matthew John	神戸大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
荻野 雅文	丹波市ふるさと創造部 ふるさと定住促進課定住促進係長	関係行政機関の職員
蘆田 典幸	兵庫県教育委員会事務局高校教育課指導主事	関係行政機関の職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
丹波市	市長 林 時彦
丹波市教育委員会	教育長 片山 則昭
丹波市国際交流協会	会長 山口 直樹
丹波市商工会議所	会頭 大地 但
丹波市観光協会	会長 柳川 拓三
丹波医療センター	院長 西崎 朗
福知山公立大学北近畿地域連携機構	市民学習部長 杉岡 秀紀
ワシントン州 ケント市	市長 ダーナ・ラルフ
ワシントン州 オーバン市	市長 ナンシー・バックラス
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	藤江 康彦	東京大学大学院教授	都度依頼し謝礼支払い
海外交流アドバイザー	松岡 秀司	カンボジア パンニャサストラ大学教授	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	鴻谷 佳彦	NPO 法人 Imagine 丹波 理事長	都度依頼し謝礼支払い

グローバルサミット						○	○	○	○			
ローカルキャリア教員養成セミナー				○	○						○	○
地域医療系人材養成プログラムの開発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域公務員養成プログラムの開発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
「ようこそ先輩」授業				○								
進路探究 WEEK						○	○					
丹波イングリッシュキャンプ					○							

*以下の項目は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止した。

- ・ケント市、オーバン市（アメリカ）における研修：7月派遣
- ・金海外国語学校（韓国）：8月派遣、2月受入
- ・東山高級中学（台湾）との交流：11月修学旅行
- ・パンニャサストラ大学（カンボジア）における研修：8月派遣
- ・在住外国人との共生：5月～2月
- ・「ようこそ先輩」授業：3月

（2）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

1年生 総合的な探究の時間「丹 BAL I」

- ・知の探究コース 研究テーマ

「丹波で農業を堪能しよう」「丹波に人を！～みんなが楽しめる複合施設を考える～」 「アウトドアで丹波を活性化～地元・観光～田舎の良さを最大限に活かせる街づくり」「犬が鹿肉を食べるメリット」「丹波の魅力 丹波栗を広めるために」「丹波市の人口を増やすには」「丹波三宝（小豆・黒豆・栗）をすべて盛り込んだスイーツを食べたいと熱望していた高校生たちが試作品を作り続けたら和菓子職人と外国人シェフを巻き込みだして地域活性化に向けて動き出した件」「丹波市の観光人口をどうすればふやせるか？」

- ・一般クラス 研究テーマ

「市民活動・地域づくり」「移住関連事業」「丹波の魅力」「丹波での仕事・企業」「丹波の三宝・地域の特産物」「丹波布」「薬草」「酒」「丹波の森林・生態系」「丹波の自然」「丹波竜」「鹿肉（ジビエ料理）」「丹波市行政の取組」「空き家活用・地域づくり」「教育」

2年生 総合的な探究の時間

- ・知の探究コース「探究Ⅱ」研究テーマ

「効果的な復習方法の考案～数学Aユークリッド互除法を用いて～」 「意欲的に参加するための授業形態の提案～洋楽を使って目指せリスニング力UP！」 「カンボジ

アの算数教育から学ぶ～楽しく意欲の湧く学びづくり～」「数学における協働学習が生徒の学習に及ぼす影響について～数学A及び数学Ⅱの授業を事例にして～」「長崎さるく的まちあるきの実践～学校での共通体験を通じた在丹外国人との信頼関係の構築のために～」「HSPと上手に付き合う方法～自分の長所に変えていくには～」「十人十色～丹波市に同性パートナーシップ制度を導入するために～」「川裾祭とホトケドジョウとフェスが大好きな高校生たちが提案する祭のカタチー地域伝統と生物多様性と多世代交流に焦点を当ててー」「丹波市における犬、猫の殺処分の現状とその改善策の研究」「文化を残す必要性について考え、方言を後世に残すことを目的とした探究活動」

・一般クラス「丹 BAL 台湾」

(ア) ディスカッション（台湾の高校生との交流前後や、講演会后）

- ・台湾の歴史、台湾の高校生について知りたいこと、伝えたいこと
- ・日本文化について（動画作成）
- ・日本の防災について（動画作成）
- ・台湾と日本の防災の違いについて
- ・書籍、講演会、交流を通じて学んだこと

(イ) 講演会や参考文献による台湾学習

- ・後藤 みなみさん講演会「台湾 日本 人生」
- ・野嶋 剛さん講演会「台湾からいま日本人が学ぶべきこと」
- ・夏休み課題図書『台湾とは何か』

(ウ) 台湾の高校生とのオンライン交流

- ・台南第一高級中学、治平高級中学とのオンライン交流を2回実施。
- ・互いに作成をした動画を視聴し、感想や意見交換を実施。

3年生

・総合的な探究の時間

自己の適性に応じた進路選択に向け、企業・大学（学部・学科）等、進路希望に関連づけて探究させた。また、小論文指導を通して、文章作成能力の向上を図った。

・選択科目「グローバル」

授業では、探究活動、動画作成、英語でのプレゼンテーションやディベートを実施し、海外とのオンライン交流を実施した。

特に今年度は、12月の「グローバルサミット」の運営や発表に取り組んだ。県内3校、県外2校、海外3校（台湾の台南第一高級中学・治平高級中学、韓国の金海外国語高校）の合計8校が参加した。サミットの実施に向け、オンラインで、互いの考えや意見を出し合い、交流を深めてきた。当日は、各校がそれぞれ英語で発表し、質疑応答も含め、すべて英語で行った。英語だけでやりとりすることを重ねる中で、語学力が向上し、コミュニケーション力についても自信をつけるなど、成果をあげた。

インターアクト部

・韓国とのオンライン交流

金海外国語高校との交流活動を、3学期にオンラインで2回実施した。日本語文化研究部の生徒との交流であり、日本語で実施する。交流を通して韓国への理解を深め

ることができた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等）

以下の教科・科目において、地域との協働による探究的な学びを推進した。

1年生 総合的な探究の時間「丹 BAL I」

2年生 総合的な探究の時間

・知の探究コース「探究Ⅱ」

・一般クラス「丹 BAL 台湾」

3年生 総合的な探究の時間「総合Ⅲ」、選択科目「グローバル」

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

3年生選択科目「グローバル」を知の探究コースと一般クラスを対象に開講し、1・2年生の2年間取り組んだ探究活動を継続できるようにしている。英語によるプレゼンテーションやディスカッションを行い、海外に向けて発信する力の育成を図った。

また、藤江康彦教授（東京大学大学院）を講師に招き、職員研修を2回実施し、探究的な学びを授業に取り入れることについて研修することで、教職員の意識改革を図った。教科横断型授業についての研究授業を実施したり、授業公開週間に教科横断型授業の実施を試み、教職員への浸透を図った。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

知の探究コースの生徒に、課題研究発表等に率先して取り組ませながら、一般クラスの生徒も含めて課題研究発表等に参加する機会を増やした。

⑤成果の普及方法・実績について

・発表実績

12月11日 福知山公立大学主催田舎力甲子園 奨励賞

12月19日 甲南大学リサーチフェスタ2021 2年知の探究コース10グループ発表

1月29日 Glocal High School Meetings 2022

【全国高等学校グローバル探究オンライン発表会】

「金賞・文部科学省初等中等教育局長賞」受賞

1月30日 全国高校生 MY PROJECT AWARD 2021 マイプロジェクトアワード

関西 Summit

2月11日 県教育委員会主催「HYOGO×WKC フォーラム高校生 SDGs 探究発表会」

3月19日 WWL・SGH×探究甲子園

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

全国及び地域での研究発表への参加は、平成30年度4大会、令和元年度9大会に出場したが、今年度も新型コロナウイルス感染症のため、中止されたものもあった。オンラインで実施された発表会には積極的に出場し、Glocal High School Meetings 2022では日本語発表部門「金賞」、福知山公立大学主催田舎力甲子園「奨励賞」を受賞した。

また、今年度は、台湾、韓国を中心にオンラインによる交流を実施した。オンラインでの海外交流により、2年生では全員が海外の高校生と交流の機会を持つことができた。台湾、韓国を始め、カンボジアの学校とのオンライン交流は、今後も継続していく。

昨年度開講した選択科目「グローバル」では、生徒が2年間取り組んだ探究活動に継続して取り組むことで、研究内容を深化させ、さらに英語でのプレゼンテーションやディベートを行い海外に向け発信するなど、成果を上げている。グローバルサミットの運営や発表を行い、成功に導いたことは、生徒にとって大きな自信となっており、さらに教室でオンラインで見学した1・2年生についても、英語学習意欲の向上へとつながった。

・外部検定への取組推進

(卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル以上の生徒の割合を25%にする取組)

平成30年度10%→令和元年度15%→令和2年度15%→令和3年度16%

・研究授業を含めた地域課題研究に関する研修会を充実させる取組(目標10回)

平成30年度4回→令和元年度8回→令和2年度10回→令和3年度10回

・グローバルな社会又は地域課題に関する公益性の高い国内外の大会に参加する生徒を増やす目標(目標100人)

平成30年度40人→令和元年度80人→令和2年度84人→令和3年度84人

・課題研究に関して地域人材の参画を促す。(参画する延べ人数目標70人)

平成30年度40人→令和元年度80人→令和2年度90人→令和3年度116人

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

カリキュラムの研究・開発について

- (1) 令和4年度入学生から、総合的な探究の時間を知的探究コース、一般クラスともに第2学年で2単位にする計画である。その運営について、検討を進めていく。
- (2) 選択科目「グローバル」に関わる教科を広げ、課題研究をより深化させながら、教科横断型の授業の取組をさらに進めていく。

自走に向けた方向性について

- (1) 柏原高等学校は、地域との結びつきが非常に強く、地元企業や地域住民と協働しやすい環境に恵まれている。一方、他校にはない国との交流校も多く、ローカルな視点を持ちつつ、グローバルに活躍できる基盤がある。また、丹波市ならではの魅力が溢れており、その魅力を高校生が国内外に向けてより発信できるよう、県事業であるインスパイアハイスクール事業やひょうごリーディングハイスクール事業を活用しながら、地域の課題解決につながるように支援する。
- (2) 3年間のこの事業で培ってきたノウハウをもとに、普通科高等学校としての魅力・特色化をさらに進めるために、国事業である「新時代に対応した高等学校改革推進事業」を活用しながら、管理機関としても、一定の事業経費を計上し、支援していく予定である。(現在、「新時代に対応した高等学校改革推進事業」申請中)

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	T E L	078-362-9447
氏 名	蘆田 典幸	F A X	078-362-4288
職 名	指導主事	e-mail	koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp